

KSKQ

イマージュ 2023年8月

1991年9月3日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・5・6・8の日)発行

態変40周年記念公演

私たちはアフリカからやってきた

公演プレ企画
態変アフリカDAYS
レポート

作・演出・芸術監督 金満里
音楽 内橋和久

10月27日〜29日
ABCホール (大阪市福島区)



撮影 / テンギョー・クラ

態変の40周年を飾る公演の題名を「私たちはアフリカからやってきた」としたのは、態変の初の海外公演がアフリカ(ケニヤ)だったという奇跡に基づくものもあるが、なによりも、今の世界を覆う破局的状況のなか、私たち人類は何処から来たのだったっけ、何処へ行くこうとしているのだろうか、それを掘り下げることを避けられなくなったからだ。

この題名を付けてしまったからには、アフリカに関連付けて、10月に向けて盛り上げていきたい。そういうことを企んでいたときに、突然の出会いが訪れた!

アフリカでは何が起こるか分からない。偶然に偶然が重なって、こんな奇跡が起こることも!(アフリカで人類が誕生したことだって、そんな奇跡のひとつだったのかも)

筋金入りのヴァガボンド(自由人・放浪者)であるテンギョー・クラ氏が7月にはナミビアに滞在していて、その彼と態変が出会って繋がってしまったのだ。

ナミビアと言えば、ウエルウィッチア。ナミブ砂漠という砂漠に植生しており、ナミビアの国花にもなっている花。態変は、『夢みる奇想天外(ウエルウィッチア)』という作品を1992年に発表しており、その偶然も喜びながら。(次ページへ続く)



態変とナミビアを結ぶならダンスを通じてしかない。テンギョーは、これまた奇跡の出会いでママ・ドリスと繋がった。ダンス・ティーチャーであるドリスは、特別支援学校で視覚・聴覚や知的に障害を持つ子どもたちにダンスを教えたり、自身のダンスチームも持って活動しているという。日にコーラ3本の栄養源で、朝4時から晩まで動き続けることができ、「ナンセンスが大嫌い」が口癖なのだそう。態変のダンスパートナーとして、これほどふさわしい人があるだろうか？

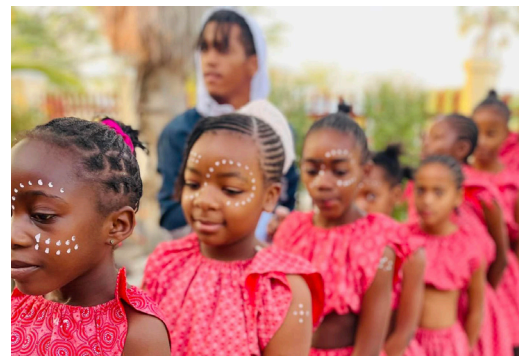
彼女の活動拠点はナミビア北端の「オシャカティ」という町。テンギョーは最初の出会いの後、ドリスが教える特別支援学校の休み明けを待って、再び片道12時間かけて首都とオシャカティを往復し、総勢50名にも及ぶ子どもたちのダンス撮影に成功。(インターネット環境が充分ではなく、互いのダンスを中継で繋ぐことは断念)。そして、7月24日の夕方、現地の映像がついに態変に届けられた！

イベント当日7月29日。まだ暑さが残る夕方6時半、メタモルホールに次々に人が集まった。パフォーマーは、態変(生演奏)↓ナミビアのダンス映像、を交互に行なう。

態変は、「故郷 大いなる 旅」という題で、色とりどりのユニタードを着たパフォーマーが転がりはいざり出てくる。ミュージシャン・アモさんによるパラフォン生演奏ともマッチし、そこに照明も加わって小さな小さな空間が満たされていく。

ナミビアの映像は、ママ・ドリスと少年が太鼓をたたき、皆が裸足で砂の上を踊る。「大地から生まれ、大地に帰る」というメッセージが込められた白い斑点を目の周りや顔に施す化粧をして、赤や黄色の衣装を身に付けて。空き缶を両手にもち鳴らしながら踊り、狩りのダンスはユーモアも感じられる。

休憩の後、NOO3で金満里×テンギョー・クラのトークセッション。ママ・ドリスに初めて会った時、このコラボレーション企画について話し態変の映像を見せたら、「よしやろう」「こういうコラボレーション



撮影 / テンギョー・クラ

ンが、人生では大事でしょ」とすぐに引き受けてくれた、とテンギョーは話す。説明はあまりいらなかった、と。金満里は「対等に関係を作りたい」という思いがある」と語り、お金は関係なしに「やろう」というママドリスによってアフリカのイメージが変わり、「具体的に人と出会った」という感触を述べる。

一人一人がつながり実現した「ナミビアエクスペリエンス」。この夜から、10月の「私たちはアフリカからやってきた」公演へと、派生していく力を感じずにはいられない。観客(Mさん)の感想をお借りする。

生で観る態変の公演は3回目。ナミビアの映像を東淀川で鑑賞するだけでも違和感があってもよさそうなのに、いざ舞台がはじまるとそんなことはなく、まったくあたりまえのように自然に一体化し

ていくから不思議。子供たちが踊っている映像と即興パフォーマンスとが交互に繰り返し披露されるうちに、さまざまな境界線がばやけていって、一つの活気溢れるエネルギーに漲った生命体に飲み込まれてしまったような感覚になっていく。その躍動感と熱気に圧倒される。木琴みたいなアフリカの民族楽器との相性も最高。それにしても、ナミビアの子供たちのスタイリッシュでクール、としか表現しようがないかっこよさと言ったら！ 第二部のトークで、そんな子供たちの食べることもままならない生活の現状や、それでも彼らにダンスという表現の場を与えようと奮闘する人々の活動を聴くと、いろいろとこみ上げてくるものがあつた。

「ナミビアエクスペリエンス」 映像配信決定！

【視聴料】 800円

【お申込】 <https://taihenafrika-namibia.peatix.com/>
(お支払いはクレジットか、コンビニ払いが可能)

※お申込みいただいたメールアドレスに
視聴用 URL をお送りします。

※視聴は8/31まで可能。

※態変 HP にも映像配信についての詳細あり↓

<http://taihen.o.oo7.jp/meta/namibia/delivery.html>

**公演ブレ企画
 態変アフリカDAYS
 vol.2 案内**

40周年記念公演ブレ企画
 第二弾は、「ケニヤ編」
 態変10周年の時に初の海外
 公演を行なったケニヤ。
 2日間に渡ってお届けします。

●一日目 ● 「映像と報告」

MUJIZA KUTOKA JAPAN 態変ケニヤ公演（1992年）回顧
 日時：8月25日（金）19時～21時

全ての発端となったケニヤからの一通の手紙は、突然に舞い込んできた。差出人は、青少年を対象にした演劇企画を専門にする組織だという、ナイロビプレイヤーズのプロデューサー。そこから態変は、いかにして、ケニヤ3都市公演を成し遂げることができたのか。当時は振り返り、お話しします。現地で撮影した貴重な記録映像もご覧いただけます。

●二日目 ● 「講演」

「ケニヤのマトマイニ（希望）を育てる」お話：菊本照子さん
 日時：8月26日（土）14時～16時

ケニヤで長年にわたり孤児院マトマイニ・チルドレン・ホームを運営してこれ、またシングルマザーの自立支援などにも取り組んでこられた菊本照子さん。態変ケニヤ公演の準備渡航でメンバーの一人が重病で命を落としかけた際に手を差し伸べてくださって以来のご縁です。菊本さんに、ケニヤのこれまでとこれからをお話いただきます。紅茶やフェルトアニマルの販売も行います。

どちらも会場はメタモルホール 料金500円
 ご予約は taihen.japan@gmail.com

態変 賛助会員制度（2023年度） 会員募集

態変が賛助会員制度による事務所運営を開始して、今年で11年目となります。今年、態変自体が40周年ということで、イベントが毎月のように行われ、事務所は毎日活況！ といった事態です。もちろん、10月には、ABCホールで行われます新作『私たちはアフリカからやってきた』を、皆さんに最高の状態で観ていただけるよう、稽古にも励んでおります。この数年間、コロナ禍で抑えざるを得なかったパワーを爆発させる勢いで日々切磋琢磨しています。

しかしながら、態変が拠点を現在の地に移してから23年が経過し、老朽化からは逃れられません。今年度に入ってから水回りのトラブルが続出し、かつ約20年使用し、車いすを一階と二階に運んでくれたエレベーターも、故障で一時使用不能、重度のパフォーマーを急な階段から二人がかりで一階へ降ろすという緊急事態も発生しました。

2012年から、公的援助を受けずに「芸術一本でやっていく！」と踏ん張って事務所運営を継続し、ここまで来る事が出来ました。これからも態変は、唯一無二の芸術を世界に発信していく所存です。事務所維持のため、賛助会員となって下さる方のご協力が不可欠です。何卒、ご協力のほど、よろしくお願いいたします！

年会費	個人会員(年会費)	一口	5,000円
	法人会員(年会費)	一口	20,000円

- 会員特典**
- ・会員証発行
 - ・劇団態変公演ダイジェスト映像DVD進呈（年1回）
 - ・態変公演チケット500円引き

入会方法 **郵便振替**
 同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。
 口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

PayPal
 メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。



(報告) 「7.26 施設障害者虐殺7年目の追悼アクション」

態変メンバーもそれぞれに毎年参加している19人の追悼アクション。大阪では、19人の四十九日からアクションを行っており今回で8回目。

数年間、梅田ヨドバシカメラ前でのスピーチとスタンディング、少しのパレードが通例となっていたが、今年は場所と方法を大きく変えた。

難波元町中公園を出発、アメ村、御堂筋、道頓堀を通り、なんば駅近くに戻る、音楽をかけて行進するという形に。暑い最中に約200人が集まり、日が暮れて暗くなってからも共に練り歩いた。車の中の人、街を歩く人も、見て聞いて感じるものがあったと信じたい。施設で殺された19人の存在を皆で街の中で思うこと、19人のことを周りに広げる行進となった。

行進終了後に、ゴール地点から少し離れた難波の交差点で街宣アピール。当日に声をかけた行進参加者から10人ほどが自分の言葉で「7.26」について語り周りの人はそれを聴き思いを巡らせた。「このアクションを続けることが大事」とはアクション有志の一人が話した言葉。19人が殺されてからの時間をどう過ごすかは一人ひとりにかかっている。(黒子/S・N)

態変 40周年記念公演

『私たちはアフリカからやってきた』

作・演出・芸術監督 = 金満里

音楽 = 内橋和久

公演日程

2023年

10月27日(金) 19:00 ※1

10月28日(土) 13:30 / 18:30 ※2

10月29日(日) 13:30

※の回は金満里とゲストによるアフタートークを行います。

※1 テンギョー・クラ (ヴァガボンド、ストーリーテラー)

※2 斎藤幸平 (経済思想家)

会場

ABCホール 大阪市福島区福島1丁目1番30号

チケット発売

9月7日(木)



表紙写真: テンギョー・クラ

編集人(返送先): イマージュ 金満里 小泉ゆうすけ 仙城真 和田佳子

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

tel/fax 06-6320-0344 e-mail taihen.japan@gmail.com 定価 50円

発行人: 関西障害者定期刊行物協会 / 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F